

前回(第15回)ご指摘事項への 回答について

平成28年9月13日

東邦ガス株式会社

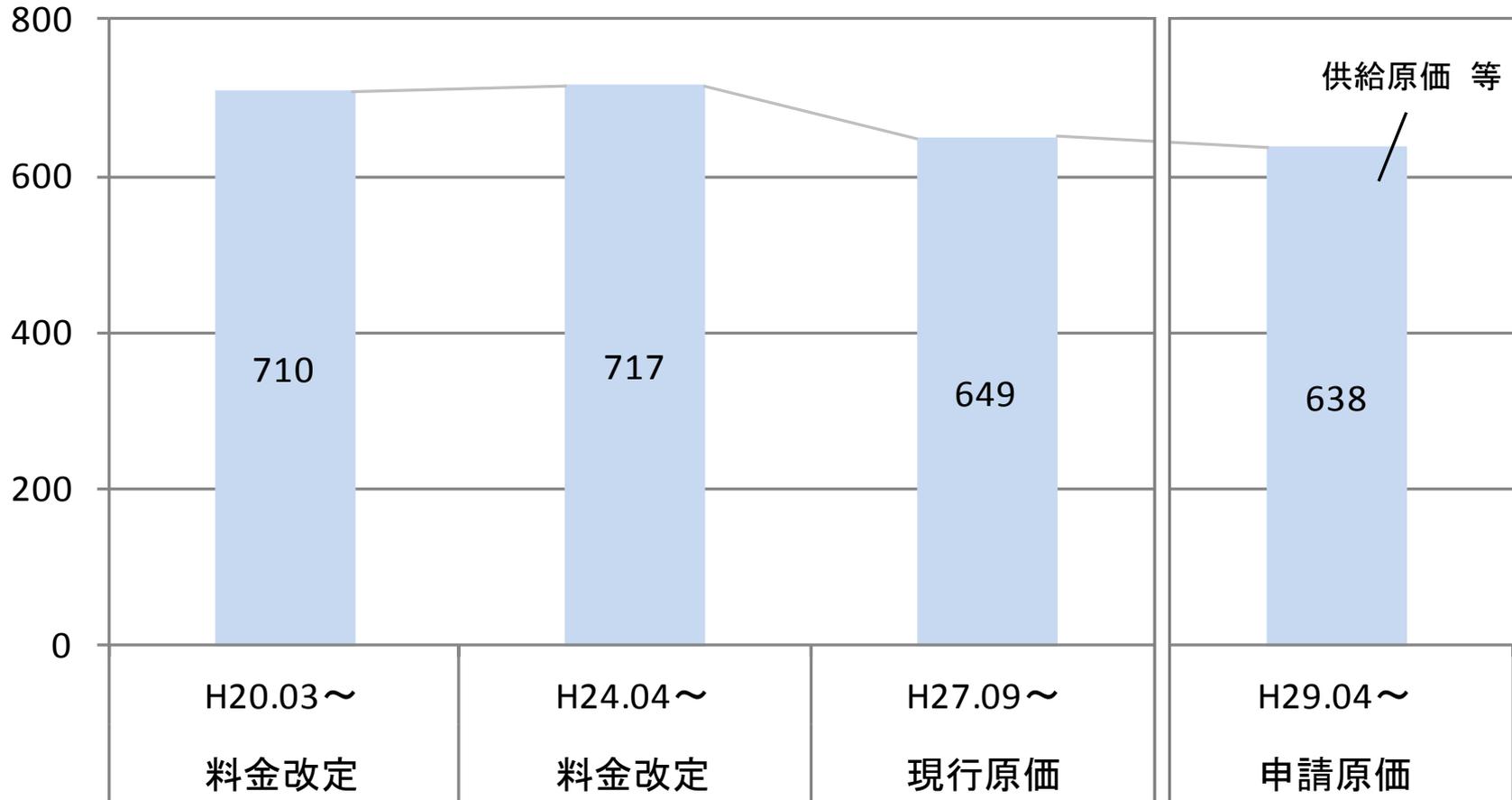
前回(第15回)ご指摘事項

指摘事項1	申請原価に関する個別影響額の過去の推移	p3
指摘事項2	過去の原価算定上の想定需要とその実績、及び 気温補正等の個別事象	p5
指摘事項3	二重導管等の離脱需要の織り込み方とその理由 (年度毎)	p6
指摘事項9	メーターの調達情報(スペック、単価)及び機能別 (通信機能有無)のメーター調達コストの推移	p7
指摘事項10	振替供給コスト等に、天然ガスにかかる費用が含まれ ているか(含まれている場合には、具体的な費用)	資料7-2 p20参照

原価の推移①

- 従来から継続している託送原価（供給原価等）の推移は以下のとおりです。

(億円)

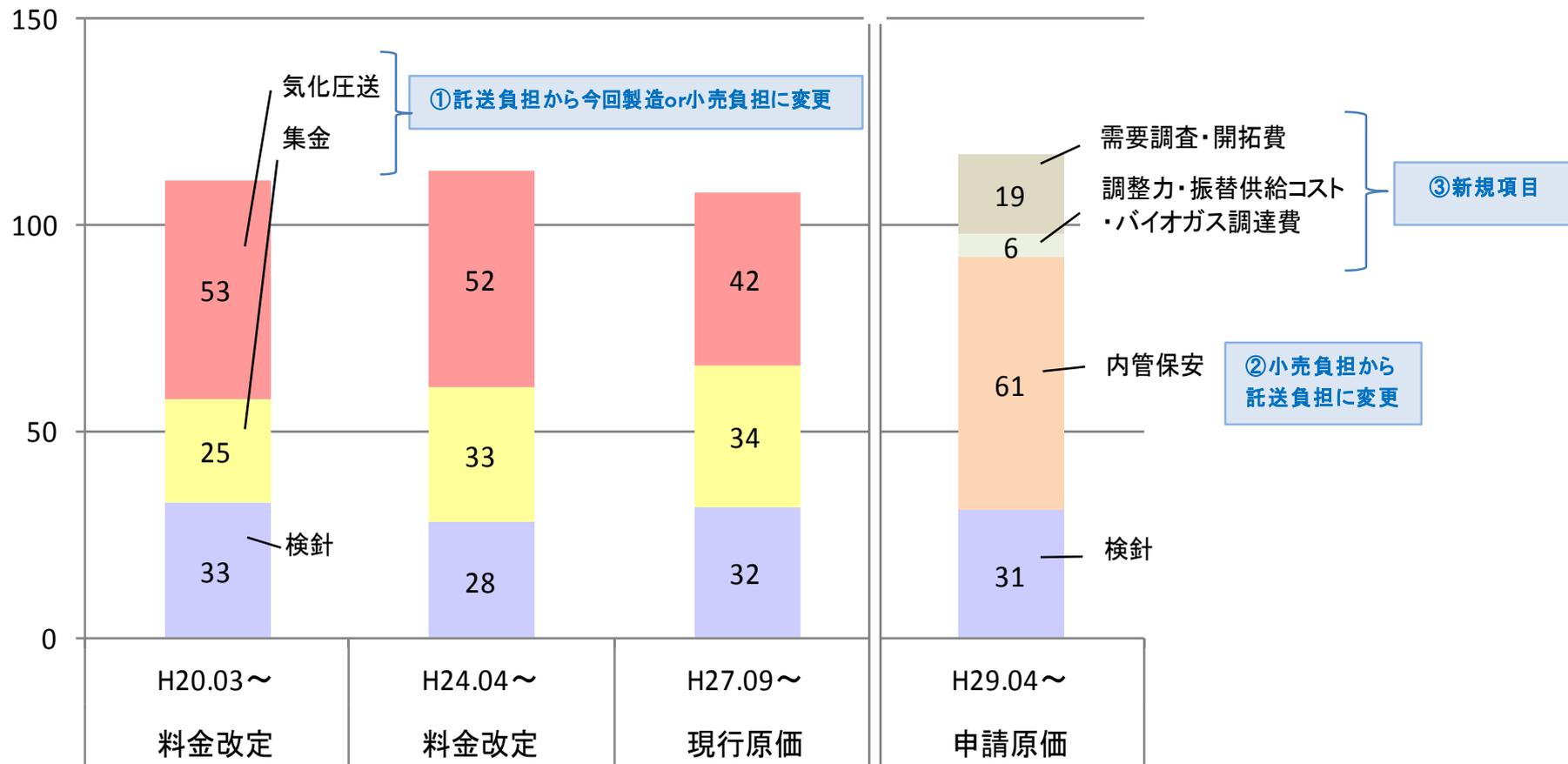


- (注) 1. 単位未満の数字は切り捨て
2. 事業者間精算にかかる原価相当分を含む

原価の推移②

- 制度変更により、①託送負担から今回製造または小売負担に変更となった原価、②小売負担から託送負担に変更となった原価、③新規項目の原価の推移は、以下のとおりです。

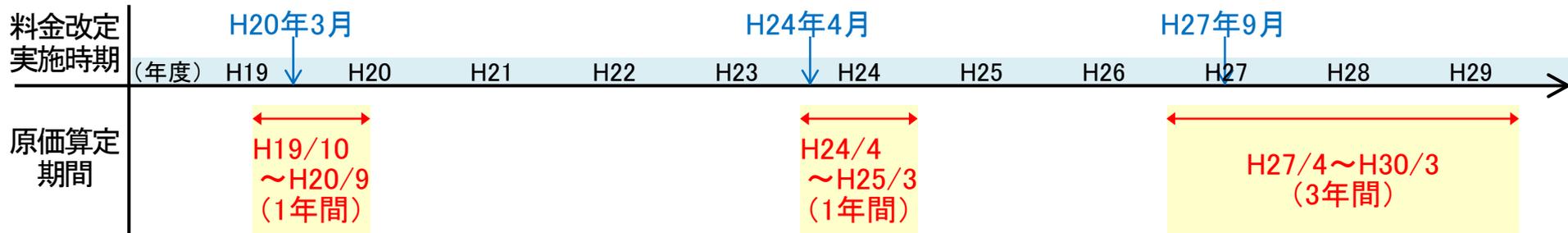
(億円)



- (注) 1. 単位未満の数字は切り捨て
2. 平成27年9月改定の現行原価は気化を除く

料金改定時の需要想定と実績との比較

- リーマンショック、東日本大震災による生産活動の低下、生産拠点の海外移転、お客さま設備の稼働減等により、「販売量実績」が「料金改定時の需要想定」を下回る状況が続いています。



H20年3月料金改定時の
需要想定と比較

H24年4月料金改定時の
需要想定と比較

H27年9月料金改定時の
需要想定と比較

(百万m³)

年度		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
販売量	想定	3,796				3,733			3,742	3,803	3,875
	実績	3,458	3,416	3,670	3,666	3,672	3,701	3,675	3,575	—	—
想定差 (上段は想定比)		▲9% ▲338	▲10% ▲380	▲3% ▲126	▲3% ▲130	▲2% ▲62	▲1% ▲33	▲2% ▲59	▲5% ▲167	—	—
気温影響		▲27	▲19	8	17	23	2	▲1	▲47	—	—
その他影響		▲311	▲361	▲134	▲147	▲84	▲35	▲57	▲120	—	—

(注) 卸供給分を除く

二重導管規制の緩和影響の想定

- 二重導管規制の緩和により、既存需要が他のガス導管事業者による供給に置き換わるものとし、原価算定期間に段階的(1%/年)に織り込んでいます。

<原価算定期間>

(百万m3)

年度	H29	H30	H31	H29~31 平均
二重導管規制の緩和影響	37	75	114	76
(参考) 今回申請原価の需要想定量	3,757	3,764	3,779	3,767

ガスメーターの購入台数と購入単価(実績)

- 当社のガスメーターは、大半が通信機能なしメーターとなっております。(通信機能なしは98%程度)
- 子会社3社を合併したH15年以降の単価削減率は、通信機能なしで▲24%、通信機能ありで▲10%であり、足元の平均単価は、それぞれ7.1千円および12.5千円となっています。

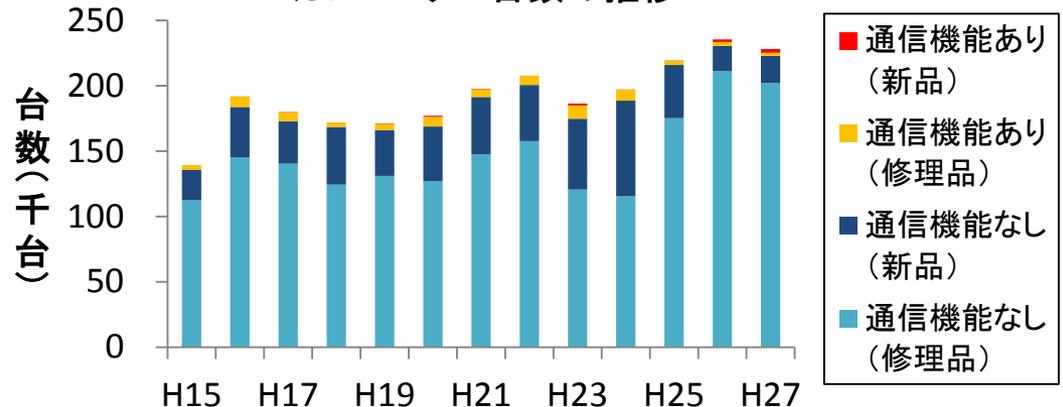
■ 年度別購入台数および購入単価実績(4~6号)※1

(単位:千台、千円/台)

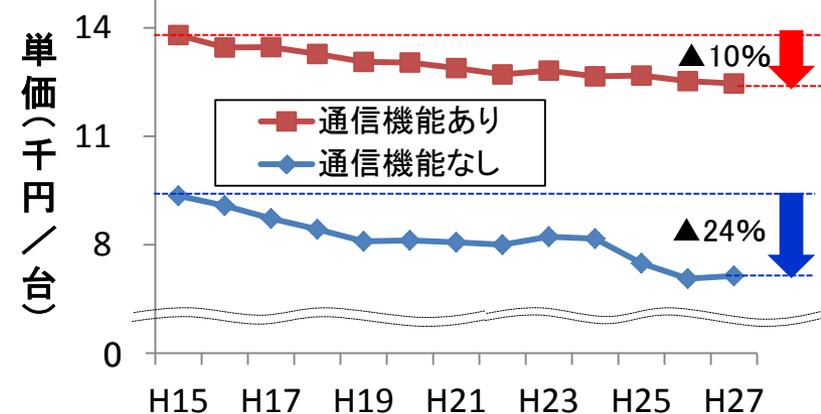
			H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
台数	通信機能なし	新品	23	39	32	44	35	42	44	43	54	73	41	19	21
		修理品※2	112	145	140	124	131	127	148	158	121	116	175	211	202
		小計	136	184	173	168	166	169	191	201	175	189	216	231	223
	通信機能あり	新品	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	3
		修理品※2	4	8	7	3	5	7	6	7	10	8	3	3	2
		小計	4	8	7	4	5	8	6	7	12	9	3	5	5
合計			139	192	180	172	171	177	198	208	186	197	219	235	228
単価※3	通信機能なし		9.4	9.1	8.7	8.4	8.1	8.1	8.1	8.0	8.2	8.2	7.5	7.1	7.1
	通信機能あり		13.8	13.5	13.5	13.3	13.1	13.0	12.9	12.7	12.8	12.7	12.7	12.5	12.5
	平均単価		9.5	9.3	8.9	8.5	8.2	8.3	8.2	8.2	8.5	8.4	7.6	7.2	7.3

※1 家庭用全メーター(1.6号~6号)のうち、家庭用4号~6号は93%(H27)を占める代表機種である
 ※2 修理品とは、ガスメーターの消耗品部分のみを交換し、大部分を再使用するガスメーター(台数割合 新品:修理品=1:9)
 ※3 特定のメーカーの納入価格に係る情報となるため、当会合での新品・修理品それぞれの単価の公表は控えさせていただきます

ガスメーター台数の推移



ガスメーター単価の推移

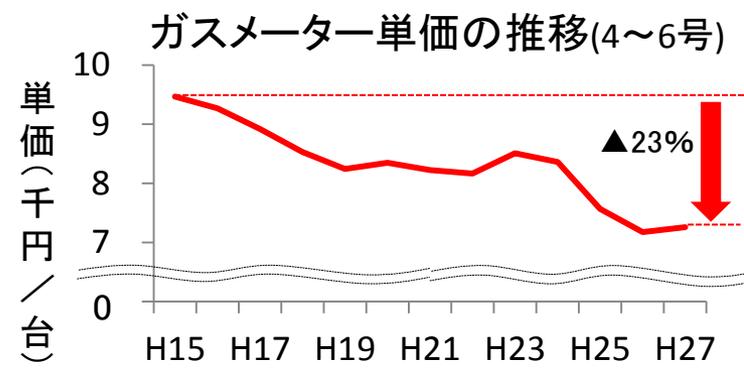


ガスメーターのコストダウンについて

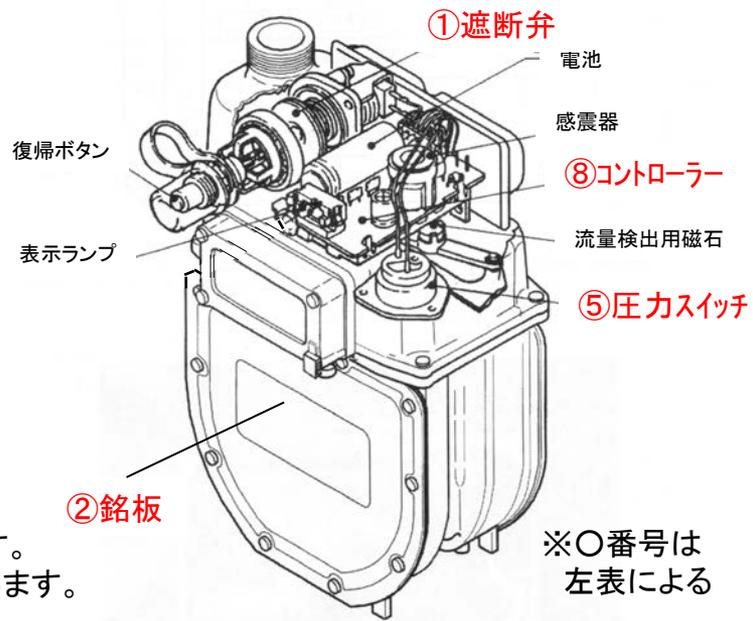
- 当社は、単価の安い修理品比率を高めることで、コストダウンに努めてきました。(H15:83%→H27:90%)
- また、ガスメーターのコストダウンに向け、「仕様の変更」「生産性向上(物流の見直し・発注量の平準化)」「競争環境の醸成(コントローラーのシェア競争発注)」によりコストダウンを図っています。

■ガスメーターのコストダウンの取り組み(H15～)

分類	取組内容
仕様の変更	①遮断弁の再利用(H23)
	②銘板のシール化(H24)
	③メーター再利用期間の延長(H25)※ (4検満(40年)→5検満(50年))
	④未利用の旧3号メーターの仕様を変更し、 4号化して修理品として活用(H25)
	⑤圧カスイッチの再利用(H25)
生産性向上	⑥物流の見直し(H16) (メーカーの支店を経由せず、工場直送化)
	⑦毎月の新品メーター発注量を平準化(H22)
競争環境の醸成	⑧コントローラーのシェア競争発注による コストダウン(H18、H19、H23、H25)



ガスメーターの構造



※部品等が製造メーカーによって異なるため、製造メーカーへ修理を依頼しています。
※消耗部品を交換後、正常に稼働するか検査を実施し、合格した物のみ使用しています。

※○番号は左表による

【参考】ガスメーターの購入台数と購入単価（通信機能無し）

- 通信機能がない現行ガスメーターは全体の約98%を占めます。
- 足元の平均単価は7.1千円となっています。

■ 年度別購入台数および購入単価実績（4～6号）※1

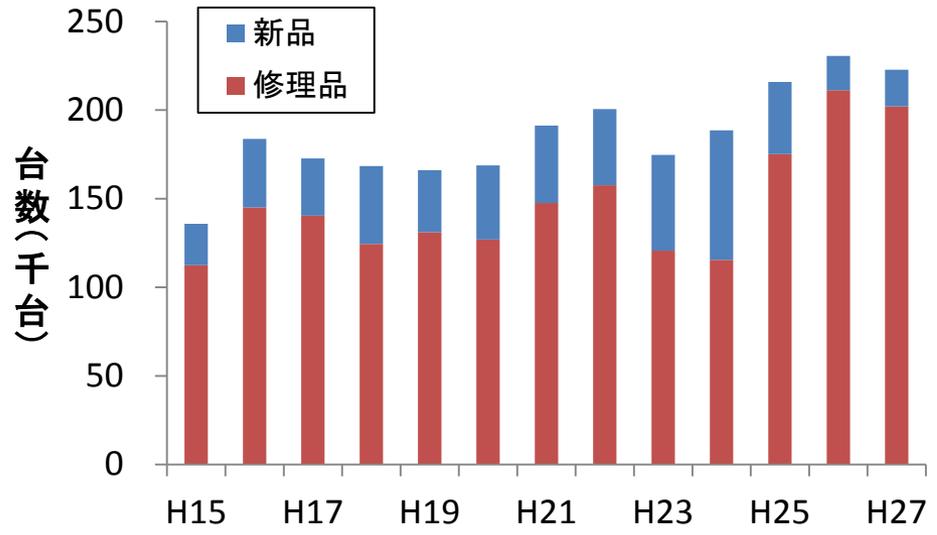
（単位：千台、千円/台）

		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
台数	新品	23	39	32	44	35	42	44	43	54	73	41	19	21
	修理品※2	112	145	140	124	131	127	148	158	121	116	175	211	202
	合計	136	184	173	168	166	169	191	201	175	189	216	231	223
平均単価		9.4	9.1	8.7	8.4	8.1	8.1	8.1	8.0	8.2	8.2	7.5	7.1	7.1

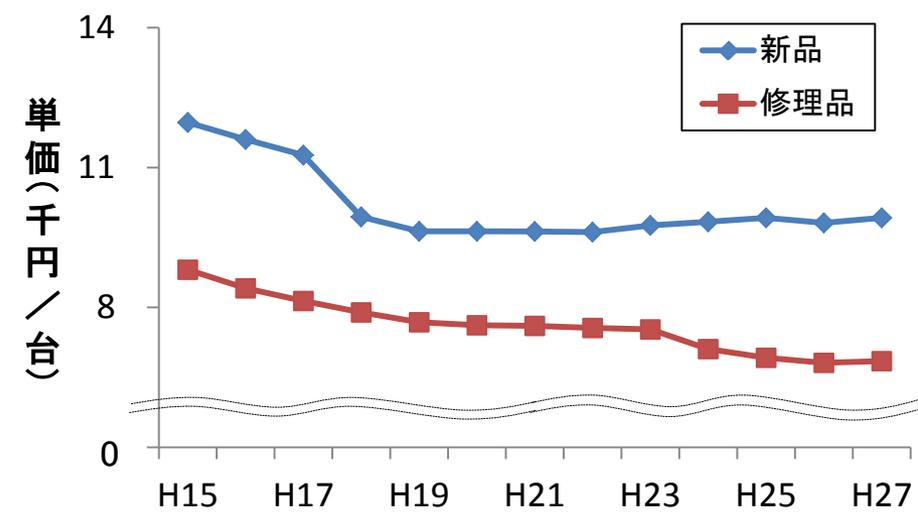
※1 家庭用全メーター(1.6号～6号)のうち、家庭用4号～6号は93%(H27)を占める代表機種である

※2 修理品とは、撤去したガスメーターの消耗品部分のみを交換し、大部分を再使用するガスメーターを指す

ガスメーター台数の推移



ガスメーター単価の推移



【参考】ガスメーターの購入台数と購入単価（通信機能あり）

- 通信機能がある現行ガスメーターは全体の約2%です。
- 足元の平均単価は12.5千円となっています。

■ 年度別購入台数および購入単価実績（4～6号）※1

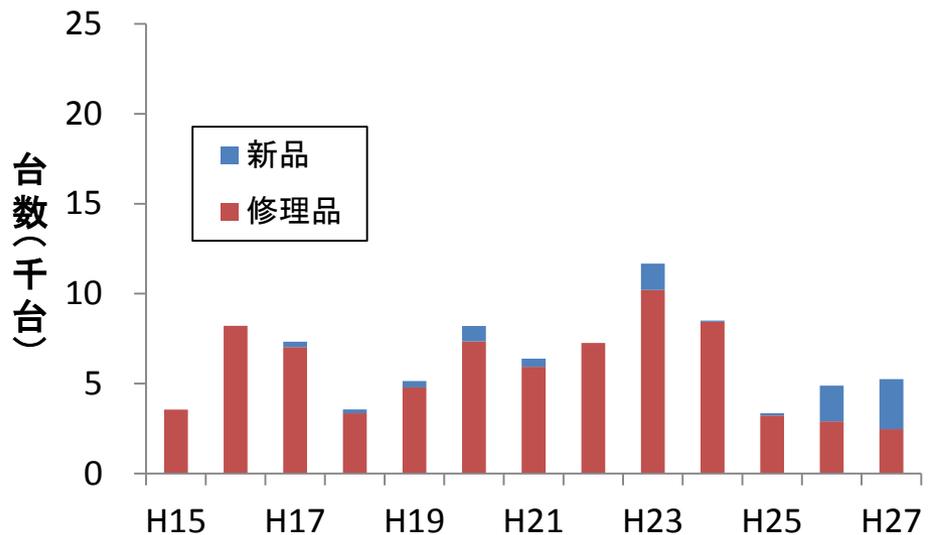
（単位：千台、千円/台）

		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
台数	新品	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	3
	修理品※2	4	8	7	3	5	7	6	7	10	8	3	3	2
	合計	4	8	7	4	5	8	6	7	12	9	3	5	5
平均単価		13.8	13.5	13.5	13.3	13.1	13.0	12.9	12.7	12.8	12.7	12.7	12.5	12.5

※1 家庭用全メーター(1.6号～6号)のうち、家庭用4号～6号は93%(H27)を占める代表機種である

※2 修理品とは、撤去したガスメーターの消耗品部分のみを交換し、大部分を再使用するガスメーターを指す

ガスメーター台数の推移



ガスメーター単価の推移

